

## 資料1 言語指導段階内容表の概要

### 1 目的

幼稚部、小学部での文型を中心とした系統的な言語学習の一つの指標とする。

### 2 基本的な考え方

子供の言語発達を見ると、4歳までにおよそ2000語の言葉を獲得し、日常生活でのやり取りが不自由なくできるようになる。しかし、聴覚に障害がある子供の場合は、係わり手である大人が意図的なやり取りを行う中で言葉の習得を図っていかなければ十分な言語発達は難しい。そのため、子供の実態に合わせ、系統的に言語学習を行っていくことが大切である。そこで、当校では、幼稚部から小学部修了段階までの言語指導の基盤となり指標となるものを作成することとした。(平成13年度作成。

14、15年度見直し、改善)

作成に当たっては、学習を支える言語力を育てる上で大切な要素として文型を取り上げ、それを軸にした内容とした。また、一般的な子供の言語発達を考慮しながら、聴覚障害児の誕生から小学部卒業までの言語指導項目を段階的に並べて構成した。参考とした主な資料は以下の通りである。なお、小学部段階の内容については、6)に取り上げられている文型を洗い出し整理した。

1) 言語発達段階表 青森県立八戸聾学校

2) 言語発達段階に即した指導、訓練 飯高京子

「言語聴覚士指定講習会テキスト」第2編6章 医歯薬出版 1998

3) 言語発達段階表 「重度聴覚障害児の指導」第 章第1節

「発達の言語指導の試み」斎藤佐和

4) 聾学校の言語指導における言語指導項目(その1)我妻敏広

ろう教育科学 Vol.39-No.2 1997

5) 言語活動評価表 「聴覚障害児童の言語活動」斎藤佐和 聾教育研究会 1986

6) 「ことばのべんきょう(練習)」聾学校国語言語指導教科書(文部科学省著作)

### 3 段階の構成

本紀要の中で使用している段階は15年度版のものであり、16年度版とは以下のように異なっている。

1) 平成15年度版

(1) 1～5段階は誕生から小学校入学前までに照準を合わせた内容である。幼児の全体像を「子供の姿」に表し、内容を「理解」と「表出」に分けた。

段階の数字が年齢に対応するように作成した。

(2) 6段階から9段階までは小学校の低学年、10段階から12段階は中学年、13段階と14段階は高学年に照準を合わせた内容とした。「ことばのべんきょう(練習)」聾学校国語言語指導教科書(文部科学省著作)の内容の中から文型指導にかかわるものを洗い出した。また、小学校国語教科書の言語事項も加味した。

(3) 段階と年齢・学年の対応一覧

段階	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
対応	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年			中学年			高学年		

\* なお、この対応年齢・学年は目安であり、子供の実態に応じて中心的に指導する段階を設定することになる。

## 2) 平成16年度版の段階の構成

(1) 平成15年度版と同様。

(2) 6～13段階は小学部1～6年に照準を合わせ、文型中心の内容である。

言語指導の教科書からの洗い出しでは、似ている内容や重なっている内容は下の学年に残して整理した。

基本的に一つの学年を一つの段階にまとめる方針で作成に当たったが、下学年の教科書が上下分冊であることや項目数を考慮し、結果として、2、3年は、一つの学年を二つの段階に、1、4、5、6年は一つの学年を一つの段階に対応する構成とした。

### (3) 段階と年齢・学年の対応一覧

段階	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
対応	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小1	小2		小3		小4	小5	小6

\*なお、この対応年齢・学年は目安であり、子供の実態に応じて中心的に指導する段階を設定することになる。

## 4 活用について

- 1) 内容表に基づく評価は年2回、学年始と学年末に行う。
- 2) 学年始の評価を自立活動の年間指導目標の設定の際の資料とする。
- 3) 十分に達成されていない項目については、年間指導目標と関連させて短期指導目標に設定して指導する。
- 4) 指導の中で形成的評価を行い、個別の指導計画（短期）に具体的な評価を記入する。
- 5) 学年末に再評価を行い、変化の状態を明らかにする。
- 6) 個別の指導計画に資料として入れる内容表の範囲は、中心的に指導する段階とその前後一つずつの段階とする。
- 7) 内容表の評価基準
  - ・ 1～5段階
    - A・・・日常生活の中で十分に達成している。
    - B・・・場の条件や内容によって達成している。
    - C・・・達成していない。
  - ・ 6～13段階
    - A・・・日常生活の中で十分に話せて書ける。
    - B・・・場の条件や内容によって話せる、書ける。
    - C・・・話せない、書けない。